



環境経営レポート

2022

(2022年1月～2022年12月)

2023年3月 発行



株式会社 吉 銘

目次

0 はじめに	03
1 環境経営方針	05
2 事業活動の概要	06
3 環境目標・実績・評価	09
1. これまでの実績の推移(全社合計)	09
2. 全社合計	10
3. 本社・新住工場	11
4. 田原本工場	12
5. 五條工場	13
4 SDGs活動	14
5 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	19
6 代表者による全体評価と見直し・指示	20

0

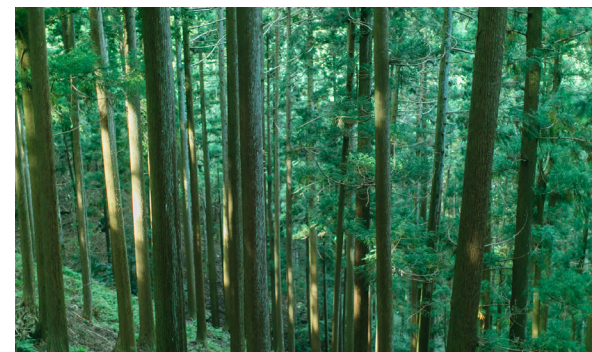
はじめに

吉銘創業の奈良の地は日本でも歴史ある優良な木材産地の一つで、1950年の貝本商店創業以来、時代によって移り変わるニーズに合わせて様々な木材を取り扱いながらその恩恵に感謝し良質な集成材を供給しながら歩んでまいりました。

創業時より『鎧をまとわない商売』という経営哲学を大切にして、信頼をもとにした持続可能な事業を心がけることをあらゆる行動の基礎として活動しています。

また一方で、「木を科学する」をテーマに最新テクノロジーを持つスタートアップに投資して、木材の価値ならびに木材を取り巻く環境向上にも目を向けています。

このような流れの中、私たち吉銘は2006年に「エコアクション21」を取得し、環境経営方針として「大自然に感謝して、少しでも恩返しを」を基本理念に継続して活動を続けており、近年の世界的SDGsへの取組を背景に、SDGsの理念を尊重しエコアクション21の活動とSDGsをリンクさせながら全社で活動に取り組み、サステナブルな社会推進に貢献致します。



0

はじめに

当社は2021年度よりSDGsの理念を尊重し、エコアクション21活動をはじめISO9001などの各種マネジメント活動とSDGs活動をリンクさせながら具体的に取り組んでいます。

環境経営方針 行動指針 事業活動	SDGs目標												
	3 すべての人に 健康と福祉を	4 質の高い 教育を みんなに	5 ジェンダー 平等を 実現しよう	6 安全な 水とトイレを 世界中に	7 エネルギーを みんなに そして クリーンに	8 働きがいも 経済成長も	9 産業と 技術革新の 基盤を つくろう	10 人や国の 不平等を なくそう	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に 具体的な 対策を	14 海の 豊かさを 守ろう	15 陸の豊かさも 守ろう	17 パートナー シップで 目標を 達成しよう
木を活かす 企業													
二酸化炭素 排出量削減													
廃棄物 排出量削減													
総排水量 削減													すべての 事業活動 
環境配慮 原材料の 使用													
環境教育と 全社活動													
安全・ 作業環境													
事業創造・ 社会貢献													

《 環境経営理念 》

『 大自然に感謝して、少しでも恩返しを 』

行動指針

1. 大自然から受けた恩恵である木材を人間の知恵をもって
最大限に余すことなく有効に利用し
〈木を活かす企業〉として循環型の住みよい環境の実現を目指します。
2. 環境汚染を未然に防止すると共に、環境経営システムと環境パフォーマンスを
自主的・継続的に改善できるように推進します。
 - 二酸化炭素排出量の削減
 - 廃棄物排出量の削減
 - 総排水量の削減
 - 化学物質の適正使用について維持管理
 - グリーン購入の推進
 - 環境に配慮した原材料の使用を推進
3. 環境教育・訓練・社内広報活動の実施により、全ての従業員に環境方針を
周知徹底すると共に、環境保全に関する知識・認識の向上を図ります。
4. 環境関連法令と当社が参加した協定等を遵守し、
必要に応じて環境管理レベルの向上を図ります。

この環境方針は、社外にも公開します。

制定日 2005年 5月 21日

改定日 2011年 3月 1日

株式会社 吉銘
代表取締役社長

財 隆 三

2

事業活動の概要

1. 事業所名および代表者名

株式会社 吉銘 代表取締役社長 貝本 隆三

2. 所在地

本社・新住工場

奈良県吉野郡下市町大字新住1118

田原本工場

奈良県磯城郡田原本町大字味間436

五條工場

奈良県五條市島野町485番地

特販部

奈良県橿原市四分町2番地1

札幌支店

北海道札幌市北区新琴似8条2丁目1-11 上島ビル203号

福岡営業所

福岡県福岡市東区多ノ津1-18-15

児玉工場

埼玉県本庄市児玉町大字元田264-1

3. 環境保全関係の責任者 および担当者連絡先

環境経営責任者 代表取締役社長 貝本 隆三

EA管理責任者 神谷 拓信

連絡先 TEL: 0747-52-4066
FAX: 0747-52-4797
E-mail: hinkan@yoshimei.co.jp

4. 事業規模(2022年度)

資本金	7200万円
年商	〈全社〉 246.37億円
主要製品生産量	〈3工場〉 29,815t ■ 本社・新住工場: 10,819t ■ 田原本工場: 11,204t ■ 五條工場: 7,223t ■ 児玉工場: 1,478t
従業員	〈全社〉 163名(2022年12月現在) 〈サイト別〉 ■ 本社・新住工場: 38名 ■ 田原本工場: 39名 ■ 五條工場: 57名 ■ その他部署: 29名
床面積	■ 本社・新住: 13,600m² ■ 田原本工場: 5,811m² ■ 五條工場: 8,132m² ■ 児玉工場: 3,325m² ■ その他部署: 1,220m²

5. 事業内容

集成材の製造販売および住宅関連商品の販売

2

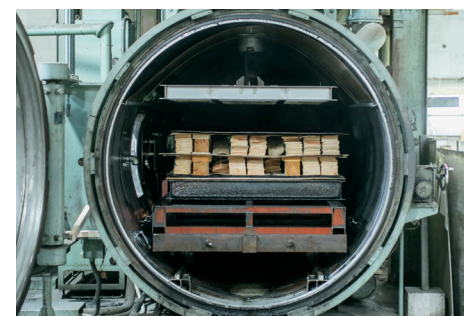
事業活動の概要

6. 沿革

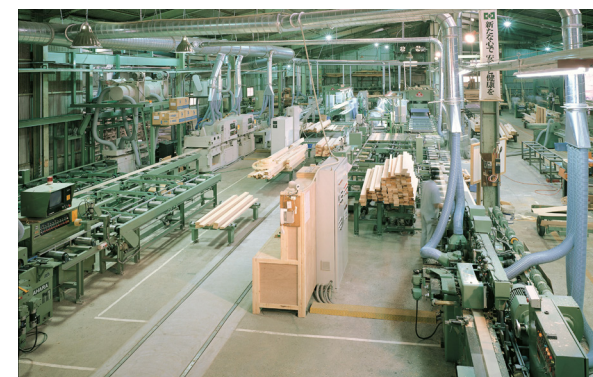
昭和25年	4月	貝本商店の創業(創業者 貝本 輝司)
28年	4月	業界に先駆け集成材の製造販売開始(当社 元祖)
40年	4月	吉野銘木製造販売(株)に法人組織化
45年	1月	貝本木材工業(株)を新たに設立(株吉銘の前身)
50年	6月	(株吉銘に社名変更)
52年	7月	本社を橿原市に新築移転
	9月	(株吉銘福山を設立)
55年	9月	山陰営業所の開設
58年	8月	福岡営業所の開設
	9月	吉野郡大淀町に佐名伝工場を新設
59年	10月	岡山営業所の開設
61年	4月	吉野銘木製造販売(株)の集成材工場を製造部門として合併
62年	3月	東京支店の開設
平成2年	3月	資本金7200万円に増資
5年	9月	全自動別注造作材プレカットライン完成
6年	2月	五條工場新設
	9月	札幌営業所開設
7年	2月	(株東日本ウッドワークス中部設立)
9年	1月	桜井工場新設
12年	6月	ISO9002認証取得
14年	4月	田原本工場新設
15年	3月	貝本木業(上海)有限公司設立
	4月	ISO9001取得
16年	10月	本社を下市町新住に移転、製造部門と統合
18年	3月	本社(管理本部・新住工場)でエコアクション21の認証を取得
20年	3月	一部認証範囲を拡大(田原本工場および五條工場を追加)
25年	4月	認証範囲を全社に拡大
26年	9月	児玉工場を開設
28年	4月	児玉工場を認証範囲に追加
29年	4月	田原本工場にて木質ペレットの製造・販売を開始
令和4年	1月	児玉工場の稼働を再開



設立当時



当時最先端の木材乾燥機

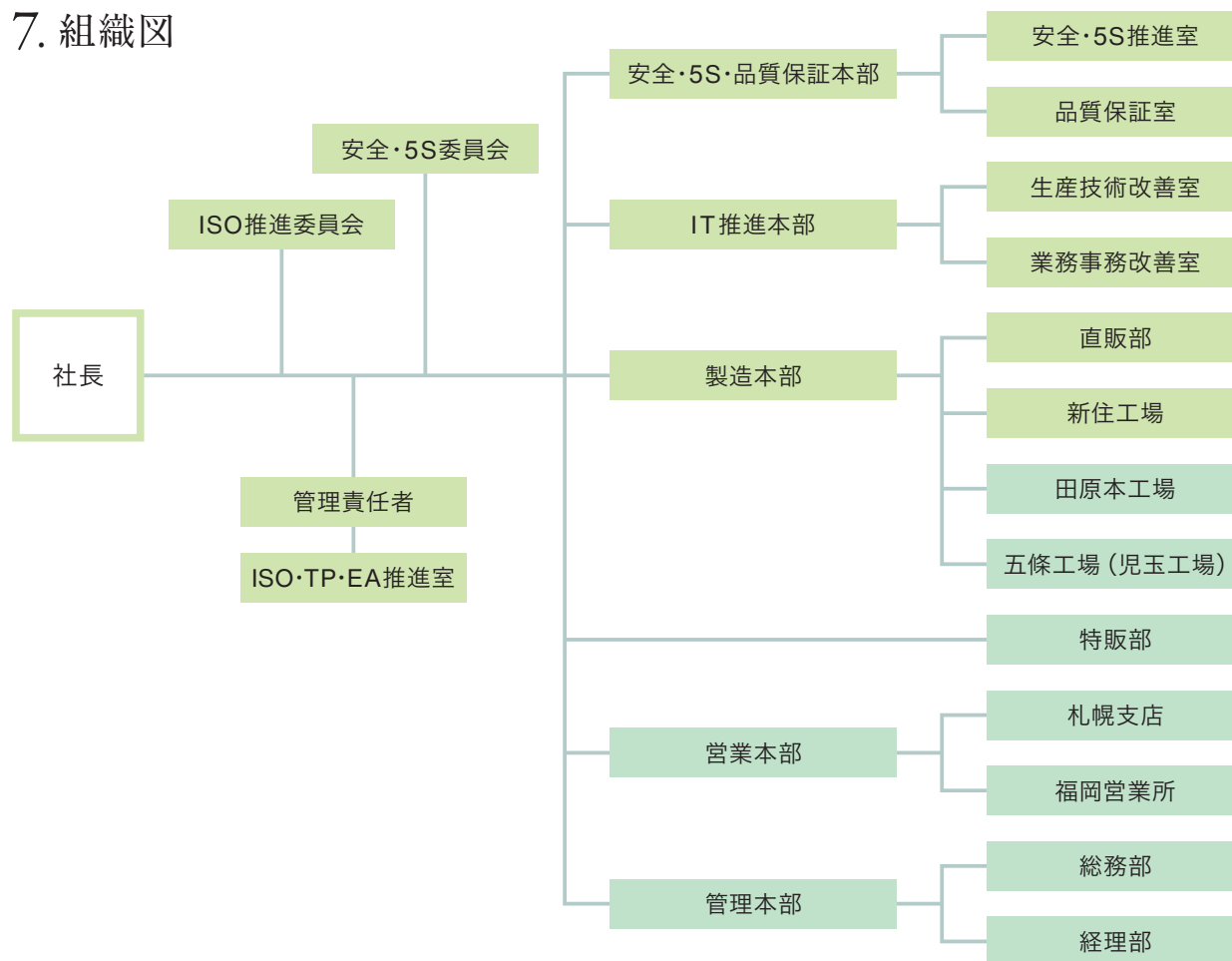


本社新住工場

2

事業活動の概要

7. 組織図



事業所		所在地
本社	直販部	奈良県吉野郡下市町大字新住1118
	新住工場	
	品質保証室	
	ISO・TP・EA推進室	
	安全・5S推進室	
	生産技術改善室	
	業務事務改善室	
田原本工場		奈良県磯城郡田原本町大字味間436
五條工場		奈良県五條市島野町485番地
畝傍事務所	特販部	埼玉県本庄市児玉町元田264-1
	総務部	
	経理部	
札幌支店		北海道札幌市北区新琴似8条2丁目1-11上島ビル 203号
福岡営業所		福岡県福岡市東区多ノ津1-18-15

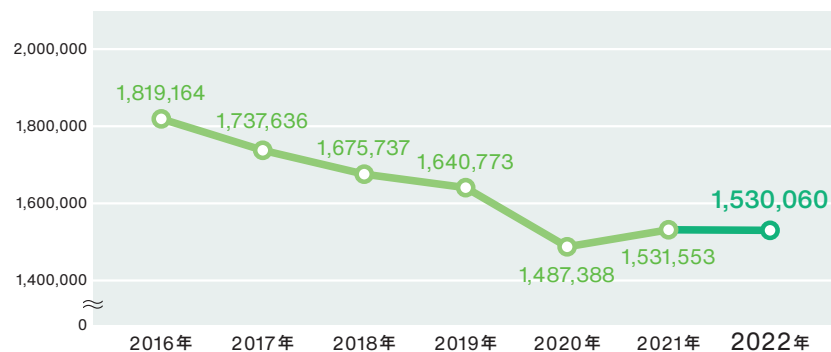
各職位の責任と権限

① 社長	② EA管理責任者 (ISO・TP・EA推進室が補佐)	③ 所属長	④ 所属長代理	⑤ 全従業員
当社の環境経営責任者として、次の責任と権限を有する。 - 環境経営システム管理責任者をはじめ、必要な責任者の任命 - 環境経営システムの構築・運用・維持に必要な経営諸資源(人材・資金・機器設備・技術技能を含む)の準備 - 環境経営に関する基本理念・基本方針の制定 - 環境経営システムの構築・運用に関する情報を収集し、方針・目標をはじめ、システム全体の見直しを行ない、必要であれば改訂を指示する	管理責任者は次の責任と権限を有する。 - 環境経営システムの計画の策定及び確認 - 環境経営システムの実施状況を社長へ報告 - 環境経営システムに関する外部関係者との連絡 - 環境経営システムの確立、実行、維持	環境方針に基づき具体的な実施項目を定め、部署の最高責任者として、部署内の環境経営マネジメントシステムに関する全ての業務について、責任及び権限を有し、所属員を管理・監督し、目標の達成を図る。 - 環境方針の展開と実施 - 責任と権限の所属長代理への伝達 - 部下の人材育成 - 部署内で営んでいる事業における環境パフォーマンスの維持・改善	所属長不在の際、所属長より権限移譲された範囲で責任と権限を有する。 所属長を補佐し事業所を管理・監督し、目標の達成を図る。	環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する。 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動に参加する。

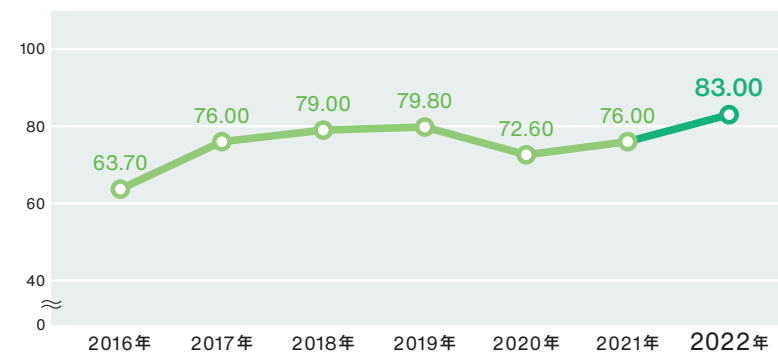
3 環境目標・実績・評価

1. これまでの実績の推移（全社合計）

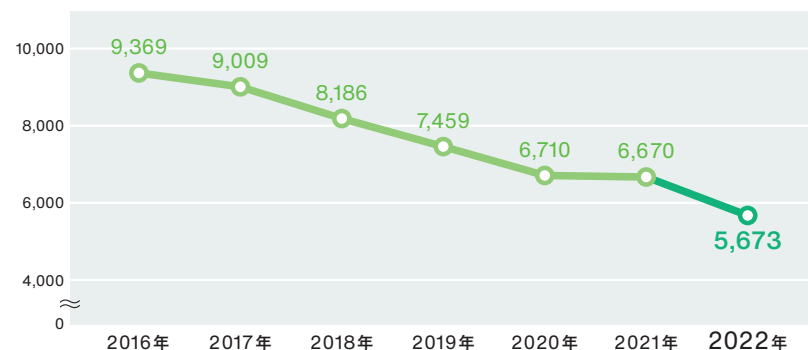
二酸化炭素排出量 (kg-CO₂/年)



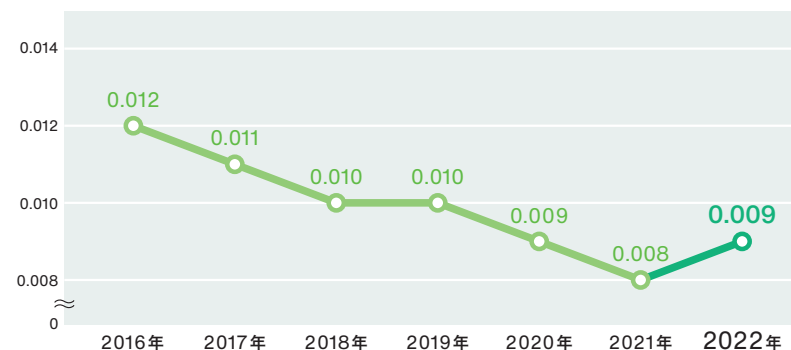
廃棄物排出量 (t/年)



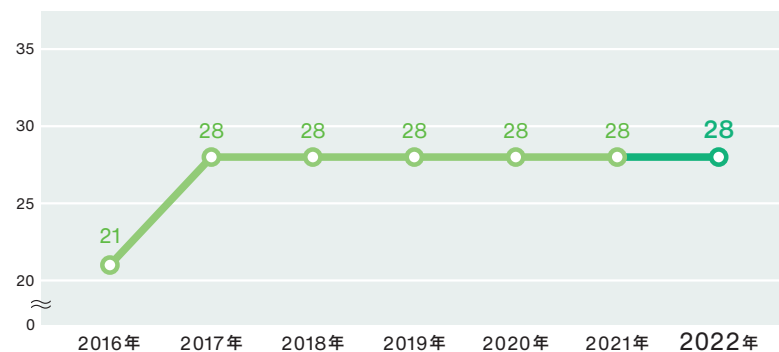
総排水量 (m³/年)



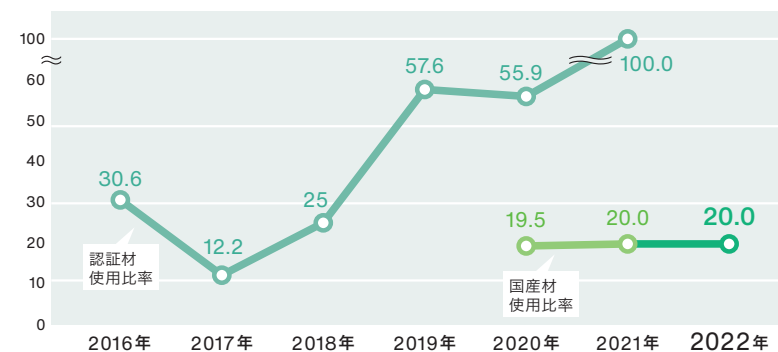
化学物質使用量 (t/t)



グリーン購入 (件/年)



環境配慮製品の割合 (%)



2. 全社合計

活動の評価基準：◎ 総量、生産量あたり共に目標達成 ○ 総量、生産量あたりどちらかで目標達成 × 総量、生産量あたり共に目標未達

項目(単位)		目標				実績	評価	
	内訳	基準 2020年 (51期)	2022年 (53期)	2023年 (54期)	2024年 (55期)		2022年 (53期)	
二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂ /年)	総量 (kg-CO ₂ /年)	1,487,388	1,485,900	1,484,413	1,482,926	1,530,060		
	内訳 購入電力 (kg-CO ₂ /年)	1,268,996				1,251,049	総量において 目標未達 生産量あたり において 目標達成	○
	化石燃料 (kg-CO ₂ /年)	218,392				279,011		
	基準に対する削減率 (%)	—	0.1% 削減	0.2% 削減	0.3% 削減	-2.9%		
	生産量 (販売量) (t)	56,825				62,488		
	生産量あたり (kg-CO ₂ /年)	26				24.5		
	基準に対する削減率 (%)	—				6.5%		
廃棄物排出量 (t/年)	総量 (t/年)	72.60	72.50	69.10	65.33	83.0	総量において 目標未達 生産量あたり において 目標未達	×
	基準に対する削減率 (%)	—				-14.3%		
	生産量 (販売量) (t)	56,825	0.1% 削減	4.9% 削減	10.0% 削減	62,488		
	生産量あたり (t/t)	0.0013				0.0013		
	基準に対する削減率 (%)	—				-3.9%		
総排水量 (m ³ /年)	総量 (m ³ /年)	6,710	6,565	6,487	6,409	5,673	目標達成	◎
	基準に対する削減率 (%)	—				15.5%		
	生産量 (販売量) (t)	56,825	2.2% 削減	3.3% 削減	4.4% 削減	62,488		
	生産量あたり (m ³ /t)	0.118				0.091		
	基準に対する削減率 (%)	—				23.1%		
化学物質使用量 (t/t)	総量 (t/年)	245	生産量あたりの接着剤の使用量を維持			256	目標達成	◎
	3工場生産量 (t)	27,559				29,246		
	生産量あたり使用量 (t/t)	0.009				0.009		
グリーン購入 (件/年)	件数 (件/年)	28	28件以上	28件以上	28件以上	28件	目標達成	◎
環境配慮製品の割合 (%)	木質建材 (国産材) の生産量 (m ³ /年)	5,132	木質建材生産において、 国産材の使用割合を21.8%以上にする			5,618	目標未達	×
	木質建材全体の生産量 (m ³ /年)	25,959				28,033		
	国産材使用割合 (%)	19.8				20.0%		

※二酸化炭素排出量算定の排出係数：購入電力 2011年まで0.378 (kg-CO₂/kWh) 2012年から関西電力0.45 (kg-CO₂/kWh) 東京電力0.464 (kg-CO₂/kWh) 北海道電力0.485 (kg-CO₂/kWh) 九州電力0.525 (kg-CO₂/kWh) を使用する。

総括

全社取組において廃棄物および環境配慮製品を除き目標達成が出来ました。

廃棄物についてはウッドショックの影響があり、田原本工場の排出量が増加しています。

3. 本社・新住工場

活動の評価基準：◎総量、生産量あたり共に目標達成 ○総量、生産量あたりどちらかで目標達成 ×総量、生産量あたり共に目標未達

PLAN			DO	CHECK							ACTION							
項目		計画	実行	目標	内訳(単位)	基準 2020年 (51期)	2022年 (53期)	削減率	理由	活動の 評価	改善							
二酸化炭素排出量削減	購入電力削減	▶生産性向上による 購入電力の削減を図る ※本社・新住工場では二酸化炭素 排出量における購入電力の 割合が高く、購入電力の削減が 最も大きな課題である	▶多品種少量生産に対応すべく 切替時間の短縮を図る	3.0% 削減	購入電力(kWh)	990,122	828,654	16.3%	－	目標 達成 ◎	▶現状活動の維持							
					二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	445,556	372,894	16.3%										
					生産量(t)	10,608	10,819	－										
					二酸化炭素排出量/生産量	42.0	34.5	17.9%										
	化石燃料 使用量削減	▶「エコドライブ」を推進し、 アイドリングストップに努める	▶省エネ運転の励行	3.0% 削減	二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	31,798	32,066	－0.8%	－	目標 未達 ×	▶省エネ運転の励行							
					生産量(t)	10,608	10,819	－										
二酸化炭素排出量/生産量					3.00	2.96	1.1%											
廃棄物排出量削減	分別による再資源化の推進	▶廃棄物の分別・再資源化 ・ダンボール ・鉄材 ・廃プラ ▶事務所関連廃棄物の削減 ・機密文書の再資源化	▶ダンボールは分別し、 古紙再生業者に引取実施 ▶鉄材は再生業者へ持込 ▶廃プラ圧縮し、リサイクル業者に 持ち込む ▶輸入梱包材の木パレットを 釘のない部分を切断し、再資源化 ▶製造工程で発生する 木材屑(プレナー屑等)は 循環資源として再生利用	0.0% 削減	廃棄物 (t)	事務所(紙)	0	0	－	▶1月よりムービングハウスの 生産活動を開始しました ※事務所の一般廃棄物の排出は 非常に僅かの高算入していません	目標 達成 ◎	▶ムービングハウス関連の 廃棄物の分別を強化して 廃棄物排出量の削減に 努める						
						工場(ダンボール)	0	0	－									
						工場(鉄)	0	0	－									
						廃プラ	18.8	18.71	0.5%									
						工場関連(その他)	－											
					廃棄物計(t)	18.8	18.71	0.5%										
					生産量(t)	10,608	10,819	－										
					廃棄物量/生産量(t)	0.0018	0.0017	2.4%										
					総削減水量	▶ボイラーの給水装置の改善 ▶事務所節水の徹底	▶ボイラーの燃料の木屑を 再利用に回し、 余分な蒸気が発生させない ようにする	23.7% 削減	総排水量(m³)				1,476	642	56.5%	－	目標 達成 ◎	▶現状活動の維持
									生産量(t)				10,608	10,819	－			
生産量あたり使用量(m³/t)	0.139	0.059	57.4%															
使用化学物質 削減	▶接着剤の使用量を把握し、 生産量あたりの 接着剤の使用量を維持する	▶毎月の接着剤の購入量と 在庫を管理	生産量あたりの 接着剤の 使用量を 維持する	総量(t/年)	4	0.3	－	－	目標 達成 ◎	▶現状活動の維持								
				生産量(t/年)	10,608	10,819	-											
				生産量あたり使用量(t/t)	0.0004	0.00003	92.6%											
グリーン 購入	▶環境配慮製品購入の推進	▶資材および物品購入時に 環境配慮製品の購入を検討する	5件	件数(件/年)	－	5件(以上)	－	－	目標 達成 ◎	▶認証木材購入の 継続に努める ▶現状活動の維持								
環境配慮 製品	▶木質建材生産量において、 国産材の利用を推進する	▶国産材の使用割合を測定して 達成度合いを監視する	木質建材 生産量に おいて、 国産材の 割合を 21.8%以上	木質建材(国産材)の 生産量(m³/年)	53.03	38.95	－	－	目標 達成 ◎	▶2022年度は目標達成								
				木質建材全体の 生産量(m³/年)	253.51	50.25	－											
				国産材使用割合(%)	20.9	77.5%	－											

4. 田原本工場

活動の評価基準：◎総量、生産量あたり共に目標達成 ○総量、生産量あたりどちらかで目標達成 ×総量、生産量あたり共に目標未達

PLAN		DO	CHECK							ACTION			
項目		計画	実行	目標	内訳(単位)	基準 2020年 (51期)	2022年 (53期)	削減率	理由	活動の 評価	改善		
二酸化炭素排出量削減	購入電力削減	▶生産性向上による 購入電力の削減を図る ▶電灯の効率利用を図る ※田原本工場では二酸化炭素 排出量における購入電力の 割合が高く、購入電力の削減が 最も大きな課題である	▶機械の生産性を上げ、 生産の効率化を図る ▶電灯の節電を実施	0.1% 削減	購入電力(kWh)	1,099,956	1,195,635	-8.7%	▶ウッドショックのために 様々な材料を使用して ラミナの切削回数が 増加しました	目標 達成 ○	▶現状活動の維持		
					二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	494,980	538,036	-8.7%					
					生産量(t)	10,074	48.0	-					
					二酸化炭素排出量/生産量	49.1	50.8	2.3%					
	化石燃料 使用量削減	▶「エコドライブ」を推進し、 アイドリングストップに努める ▶省エネ運転を励行する ▶電気式フォークリフトの 採用の検討	▶朝礼等での啓蒙 ▶フォークリフトに啓蒙表示	0.1% 削減	二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	24,721	28,178	-14.0%	▶倉庫や天然乾燥場での フォークリフトの稼働が 増加しました	目標 未達 ×	▶現状活動の維持		
					生産量(t)	10,074	11,204	-					
二酸化炭素排出量/生産量					2.45	2.51	-2.5%						
廃棄物排出量削減	分別による 再資源化の推 進	▶廃棄物の分別・再資源化 ・鉄材 ・廃プラ ▶事務所関連廃棄物の削減	▶ダンボールは分別し、 古紙再生業者に引取実施 ▶鉄材は再生業者へ持込 ▶廃プラ圧縮し、リサイクル業者に 持ち込む ▶製造工程で発生する 木材屑(プレナー屑等)は 自社内ボイラー燃料として熱回収 及び循環資源として再生利用	0.0% 削減	廃棄物 (t)	木材(プレナー屑)	0	0	-	▶廃プラスチックが 再利用品として販売できない 状況が継続。 ※事務所の一般廃棄物は 工場関連(その他)に 含まれています	目標 未達 ×	▶現状活動の維持 ▶廃プラスチックの 再利用先を探す	
						工場(鉄)	0	0	-				
						廃プラ	47.0	55.9	-18.9%				
						工場関連(その他)	-	-	-				
					廃棄物計(t)	47.0	55.9	-18.9%					
					生産量(t)	10,074	11,204	-					
					廃棄物量/生産量(t)	0.0047	0.0050	-6.9%					
					総排水量 削減	▶人工乾燥作業の生産性向上 ▶事務所節水の徹底	▶蒸気配管バルブの開閉を 夏・冬で見直し実施 ▶ボイラーの運転時間を 夏・冬で見直し実施 ▶人工乾燥に使用していた蒸気を ボイラーの給水タンクにもどす	-9.7% 削減	総排水量(m ³)				2,380
生産量(t)	10,074	11,204	-										
生産量あたり使用量(m ³ /t)	0.236	0.222	6.1%										
使用化学物質 削減	▶接着剤の使用量を把握し、 生産量あたりの 接着剤の使用量を維持する	▶毎月の接着剤の購入量と 在庫を管理	生産量あたり の接着剤の 使用量を 維持する	総量(t/年)	193	203	-	-	目標 達成 ◎	▶現状活動の維持			
				生産量(t/年)	10,074	11,204	-						
				生産量あたり使用量(t/t)	0.019	0.018	5.7%						
グリーン 購入	▶環境配慮製品購入の推進	▶資材および物品購入時に 環境配慮製品の購入を検討する	5件	件数(件/年)	-	5件(以上)	-	-	目標 達成 ◎	▶現状活動の維持			
環境配慮 製品	▶木質建材生産量において、 国産材の利用を推進する	▶国産材の使用割合を測定して 達成度合いを監視する	木質建材 生産量に おいて、 国産材の 割合を 21.8%以上	木質建材(国産材)の 生産量(m ³ /年)	1,259	1,668	-	-	△	▶2020年度より 国産材比率が 増加しました。			
				木質建材全体の 生産量(m ³ /年)	21,887	24,072	-						
				国産材使用割合(%)	5.8	6.9%	-						

5. 五條工場

活動の評価基準：◎総量、生産量あたり共に目標達成 ○総量、生産量あたりどちらかで目標達成 ×総量、生産量あたり共に目標未達

PLAN			DO	CHECK							ACTION	
項目		計画	実行	目標	内訳(単位)		基準 2020年 (51期)	2022年 (53期)	削減率	理由	活動の 評価	改善
二酸化炭素排出量削減	購入電力削減	▶生産性向上による 購入電力の削減を図る	▶機械の生産性を上げ、 生産の効率化を図る ▶電灯の節電を実施	-2.8% 削減	購入電力(kWh)		702,388	729,920	-3.9%	▶新規にプレカット加工機を 導入し、生産量の増加により 排出量が増加しました	目標 達成 ○	▶各生産設備の 生産性を上げることで、 生産量あたりの 二酸化炭素排出量を 削減する施策を継続する
					二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)		316,075	328,464	-3.9%			
					生産量(t)		6,877	7,223	-			
					二酸化炭素排出量/生産量		46.0	45.5	1.1%			
	化石燃料 使用量削減	▶「エコドライブ」を推進し、 アイドリングストップに努める ▶省エネ運転を励行する ▶人工乾燥の効率化を図る	▶朝礼等での啓蒙 ▶フォークリフトに啓蒙表示	-2.8% 削減	二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)		132,405	186,374	-40.8%	▶受注増により、人工乾燥に 使用する灯油の量が増加した ▶新規乾燥設備 (灯油ボイラー使用)を 設置・稼働を開始しました	目標 未達 ×	▶天然乾燥の期間を確保す ことで木材の水分量を 少なくして人工乾燥時時間 を短くし灯油の使用量を 削減する施策を継続する
					生産量(t)		6,877	7,223	-			
二酸化炭素排出量/生産量					19.25	25.80	-34.0%					
廃棄物排出量削減	分別による 再資源化の推 進	▶廃棄物の分別・再資源化 ・鉄材 ・廃プラ ▶事務所関連廃棄物の削減	▶ダンボールは分別し、 古紙再生業者に引取実施 ▶鉄材は再生業者へ持込 ▶廃プラ圧縮し、リサイクル業者に 持ち込む ▶製造工程で発生する 木材屑(プレナー屑等)は 自社内ボイラー燃料として熱回収 及び循環資源として再生利用	0.0% 削減	廃棄物 (t)	工場(鉄)	0	0	-	▶透明な廃プラの資源化は 継続中 ※事務所の一般廃棄物の排出は 非常に僅かの為算入していません	目標 未達 ×	▶現状の活動を継続する
						廃プラ	6.1	7.68	-25.9%			
						工場関連(その他)	-	-	-			
					廃棄物計(t)		6.1	7.68	-25.9%			
					生産量(t)		6,877	7,223	-			
					廃棄物量/生産量(t)		0.0009	0.0011	-19.9%			
					総排水 量削減	▶人工乾燥作業の生産性向上 ▶事務所節水の徹底 ※五條工場ではラミナ(製品を 構成する板材)を乾燥するための ボイラーに水を使用している。	▶水道水使用量を毎月確認する ▶人工乾燥の前に天然乾燥を 十分することで ボイラー使用水を削減する ▶人工乾燥時の木屑焚きボイラーの 蒸気を効率運用する	1.0% 削減	総排水量(m ³)			
生産量(t)		6,877	7,223	-								
生産量あたり使用量(m ³ /t)		0.390	0.332	14.7%								
使用化学 物質 削減	▶接着剤の使用量を把握し、 生産量あたりの 接着剤の使用量を維持する	▶毎月の接着剤の購入量と 在庫を管理	生産量あたりの 接着剤の 使用量を 維持する	総量(t/年)					47.53	52.764	-	-
				生産量(t/年)		6,877	7,223	-				
				生産量あたり使用量(t/t)		0.007	0.007	-5.7%				
グリーン 購入	▶環境配慮製品購入の推進	▶資材および物品購入時に 環境配慮製品の購入を検討する	5件	件数(件/年)		-	5件(以上)	-	-	目標 達成 ◎	▶現状活動の維持	
環境 配慮 製品	▶木質建材生産量において、 国産材の利用を推進する	▶国産材の使用割合を測定して 達成度合いを監視する	木質建材 生産量に おいて、 国産材の 割合を 21.8%以上	木質建材(国産材)の 生産量(m ³ /年)		3,819	3,910.6	-	-	目標 達成 ◎	▶2022年度は目標達成	
				木質建材全体の 生産量(m ³ /年)		3,819	3,910.6	-				
				国産材使用割合(%)		100.0	100.0%	-				

4 SDGs活動

SDGsの活動内容 当社は下記の活動を通してSDGsに取り組んでいます。

環境経営方針 事業活動	SDGs 目標	活動内容
木を活かす企業	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	ペレットを製造販売して、 化石燃料の使用量削減に貢献します。
	12 つくる責任 つかう責任	木材の効率的な利用とスマートモジュールで 木材の特性を活かし自然と調和した生活を提案します。
	15 陸の豊かさも 守ろう	集成材の製造の際に、短材などの手間のかかる材を 積極的に利用して、森林資源減少に努めています。
二酸化炭素 排出量削減	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	生産性を向上させて、単位当たりの電力使用量を 削減することでエネルギー効率の改善に寄与します。
	8 働きがいも 経済成長も	従業員参加のTP活動により、生産技術を磨き 生産性向上に寄与します。
	13 気候変動に 具体的な対策を	二酸化炭素排出量を削減することで、 気候変動の緩和に努めます。
廃棄物削減	12 つくる責任 つかう責任	生産に係る化学物質や廃棄物の管理を実現し、 排出量を削減しています。
	14 海の豊かさも 守ろう	ペット、プラ類の分類・リサイクルすることで 海洋汚染防止を防ぎます。
	15 陸の豊かさも 守ろう	ペーパーレス化と製品の歩留り向上により 森林資源の減少に寄与します。
総排水量削減	6 安全な水とトイレ を世界中に	発生させた蒸気を回収して、 水の使用量削減に貢献します。

環境経営方針 事業活動	SDGs 目標	活動内容
環境に配慮した 原材料の使用	12 つくる責任 つかう責任	国産材の利用を推進することで 国の政策を支援しています。
	15 陸の豊かさも 守ろう	合法木材を利用することで、 持続可能な森林経営ならびに木材の循環に 貢献しています。
環境教育	4 質の高い教育を みんなに	環境教育はもとより、ISO活動、TP活動においても 個々のスキル向上、多能工化や部署成長の取組を通じて 社員教育を実践しています。
安全・作業環境	3 すべての人に 健康と福祉を	従業員の安全、健康を実現するために、 作業環境の改善に努めています。
	5 ジェンダー平等を 実現しよう	女性の働きやすい作業環境を作っています。
	10 人や国の不平等 をなくそう	誰でも作業できるよう現場設備の改善を進めています。
事業創造・ 社会貢献	8 働きがいも 経済成長も	部活動などの福利厚生充実により企業価値を高め、 雇用を確保して事業創造・継続をします。
	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	国内外のスタートアップ企業に投資し 最先端テクノロジーを自社の経営に活かしたり、 技術革新の基盤構築に向け積極的に対応しています。
すべての 事業活動	17 パートナリシップで 目標を達成しよう	国内外のサプライヤーと協調しながら 事業を行っています。

安全・作業環境

女性の採用増と働き方の提案



吉銘では働き方改革の一環として、女性の積極登用をしております。木材産業（特に構造材）においては「製品が重い」、「仕事がきつい」イメージを持たれがちですが、女性でも出来る作業はたくさんあります。労働時間についても事前申告制のフレックス採用もあり、子育て世代の方々にも好評をいただいています。

男女の垣根なく働ける職場づくりにこれからも取り組みます。

社内コミュニケーション

社内クラブeスポーツ部の活動



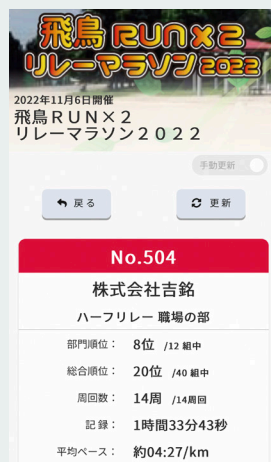
当社では、社内でeスポーツ部の活動を通じて、離れた事業所のメンバーともコミュニケーションをとっています。現在メンバーは17名です。部室はスマートモデューロを採用しています。



2022年から企業対抗戦にも参加しています。みんな業務にも部活にも精一杯頑張っています。

社内コミュニケーション

飛鳥リレーマラソンに参加



今年初めて有志のメンバーで飛鳥リレーマラソンに参加しました。県内の3工場のメンバーで、技能実習生も参加してくれました。10人でタスキをつなぎ無事完走しました。

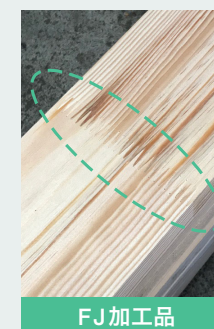
参加者の声

1本のタスキを繋ぎ走る達成感があり、楽しかったです。また来年も走りたいです。



木を活かす企業

木材の有効活用



国産材は傾斜地で生育していることが多く、規格外の丸太も山から出材されます。集成材製造においてはフィンガージョイント(FJ)による材料を長さ方向に接合する工程があります。当社は規格材の欠点を除去してジョイントするだけでなく、定尺に満たない材を積極的に購買して、限りある木材資源をより余すことなく使用し、高付加価値な資材として供給しています。

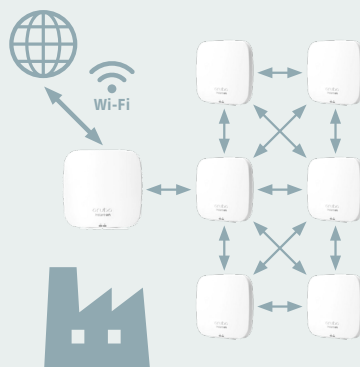
二酸化炭素排出量削減

TP活動による
生産性向上

各工場では品質記録を現場で紙に記録して、事務所でPCに入力してデータ化し分析する作業をしていました。この作業を省力化して生産に充てる時間を確保するために工場内にWi-Fi網を完備する工事を実施しました。

記録の100%デジタル化はまだできていませんが、Wi-Fi網を活用して省力化・品質向上に努めます。

メッシュWi-Fi



工場内ネットワークインフラの整備



五條工場



田原本工場



新住工場

木を活かす企業

スマートモデュロ生産による
高性能木質空間の提供

スマートモデュロは木造軸組で構成された自由度抜群の新たな住宅です。高気密・高断熱・遮音性・耐震性・耐久性と無駄を省いたエコロジーの両方を実現しています。



下田オーシャンリゾート
THE CLIFF様に
採用いただきました。

社会貢献

事業創造とサステナビリティ経営



当社は国内外のスタートアップ企業に投資し、最先端テクノロジーを自社の経営に活かしたり、技術革新の基盤構築に向け積極的に対応しています。

詳しくは弊社ホームページを参照ください。

<https://www.yoshimei.co.jp/>



LocationMind
ビッグデータ



ABF Capital
ベンチャーキャピタル



DX通信株式会社
自治体DX



Angel Bridge
ベンチャーキャピタル



nitoeru
チーム型副業サイト



DigitalRecipe
ノーコード開発



HOMMA
スマートホーム



Dodai
アプリカ



Frich
P2P保険



株式会社東京
サインエージソリューション



AI Dynamics Japan
AI開発プラットフォーム



プライズ
HR Tech



日本商業不動産保証
Fin Tech x Re Tech



TippsySake
米国EC



ウェルシー株式会社
ファイトケミカル



ALE
人工流れ星・人口オーロラ



Motion Gestures
センシング



KAKEAI
HR Tech



Fennel
eスポーツ



PacificLight & Hologram
ホログラム



TIKOMED
バイオ



Inclusion Japan
ベンチャーキャピタル

5

環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社に関連する環境関連法規と遵守状況は次の通りです

環境関連法	主要な設備等	遵守状況			
		本社・新住工場	田原本工場	五條工場	児玉工場
大気汚染防止法	ボイラー	○	○	○	-
騒音規制法	木材加工機 コンプレッサー	○	○	○	-
振動規制法	コンプレッサー	○	○	○	-
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物	○	○	○	○
消防法	木材加工品 木屑	○	○	○	○
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	第1種指定化学物質	○	○	○	-
フロン排出抑制法	業務用エアコン エアドライヤー	○	○	○	○
自動車NOx・PM法	トラック	○	-	-	-

○：遵守
△：申請中
-：非該当
×：未遵守

総括

全事業所において過去3年間、関係当局より違反、訴訟等の指摘はありません。

6

代表者による全体評価と見直し・指示

項目	見直しの有無	変更・理由
環境経営方針	変更なし	－
環境目標・計画	変更なし	－
実施体制	変更あり	児玉工場は暫く中断していた生産を再開

当社は緑豊かな地で創業して以来木材に携わり、
大自然の恩恵を受けて成長してまいりました。
行動指針の通り、大自然から受けた恩恵である木材を
人間の知恵をもって最大限に余すことなく有効に利用することを
常に心掛けて活動しています。

今期の取組につきましては、
二酸化炭素排出量と総排水量は生産量当たりの全社目標を達成しました。
廃棄物排出量は目標未達となりましたが、活動は継続出来ています。
来期につきましては生産量当たりで環境目標を達成するよう、
引き続き現体制にて活動致します。

これからも従業員一人一人の環境への意識向上はもとより、
生産性向上による資源の省力化・エネルギーの効率利用を目指しながら、
持続可能な社会実現に貢献できるよう
引き続き企業活動に邁進して参ります。

● 次回の環境レポートは2024年3月の予定です。

2023年2月3日
代表取締役社長

財 隆 三

